



ユニバーサルデザイン天文教育

特集にあたって

嶺重 慎 (ユニバーサルデザイン WG 代表・京都大学基礎物理学研究所)

天文教育普及研究会では、2006年夏にユニバーサルデザザンワーキンググループ (WG) をたちあげ、ささやかではありますが、天文教育普及のユニバーサルデザザン化を目指した活動を開始しました[1]。2007年6月17日には、関東支部の方々、特に支部委員の高橋淳さんと山梨県立科学館の高橋真理子さんのご尽力により、「ユニバーサルデザザン天文教育」をテーマとした会合をもつことができました[2]。

本特集では、その会合で発表されたこと、話し合われたこと、会に参加された方々が個々に感じられたこと、そして WG メンバーによる投稿記事を、2回に分けて掲載します。今、どのような活動が繰り広げられており、また計画されているのか。ぜひ、一つ一つの原稿をご覧ください。

もうこれ以上書く必要は無いとは思いますが、あえて個人的な思いをここに書かせて頂きます。

それは、ユニバーサルデザザン天文教育は、何ら特別なことではないということです。天文教育普及活動とは、本来、全ての人を対象にした(ユニバーサルな)ものであるべきで、一部の人にまかせておけばいいというものではないのです。

とはいうものの、全てのタザンの人にあらゆる対処をすることは簡単ではありませんし、現実的でもありません。まずは、できるところから少しずつ始めていきましょう、そんなに難しいことはありませんよ、と訴えるのが、本特集をする意義です。

私たちのまわりにはいろいろな人がおられます。子どもも年輩の方も、しょうがいのあ

る方も闘病生活をおくっておられる方も、世代や国籍を越えて、全ての人が、共に星を見る、感じる、宇宙を語るということができれば、それはまた、自分自身を見つめなおすことにもなるのだと思います。

どうぞ、皆さんも共に、考えてみて下さい。そして、一緒に活動していきましょう。

参考文献

- [1]「ユニバーサルデザザンWGについて」嶺重慎ほかユニバーサルデザザンWG、第20回天文教育研究会集録, p.74, 2006
- [2]「ユニバーサルデザザン天文教育」高橋淳、天文教育 vol. 19, No. 4, p.47, 2007